

第4回低炭素ワーキンググループ

議事録

1. 日時：2016年9月30日 金曜日 9:30～11:00
2. 場所：三会堂ビル4階 会議室
3. 参加委員：枝廣委員、小西委員、藤野座長、臼井委員、三浦委員、岩川オブザーバー
飯野オブザーバー

4. 議事録：

※議事録では「ワーキンググループ」を「WG」と記載しております。

- 事務局 第4回低炭素WGを開催いたします。今回からオブザーバーとして環境省地球環境局地球温暖化対策課の飯野課長補佐にご参加いただくことになりました。
それでは以後の議事進行につきましては、藤野座長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。
- 藤野座長 おはようございます。会場が新しくなって、私も慌ててしまいました。前回の低炭素WGの時に議論の様子などを公開しようということで、今回からメディアの方々にも原則公開することになっておりますのでご承知おきください。前回のWGから議事録が詳細なバージョンが共有されていますので、そちらの方もご参考にしてください。それでは申し訳ありませんけれども、これ以降の写真撮影につきましてはご遠慮願います。
では議事次第に従って、議事次第1番の前回の振り返りから、事務局からご説明お願いたします。
- 事務局 資料2（第2回低炭素WG 議事概要）を使って、前回の概要を説明。
- 藤野座長 どうもありがとうございました。飯野さんが来られました、今回からよろしくお願いたします。今の議事録について、何かコメントとか確認したいこととかよろしいですか。
- 岩川オブザーバー この資料も公表するのでしょうか。
- 事務局 そうです。既にWEBに載っています。今回WEBに載せる前に皆さんに内容確認をしていただきましたけれども、今後ともそういった形でやらせていただきますので、よろしくお願いたします。
- 藤野座長 よろしいのでしょうか。それでは次、議題の2の資源管理WG・持続可能な調達WGの検討状況の報告、資料3ですか。よろしくお願いたします。
- 事務局 資料3（資源管理WG・持続可能な調達WGの検討状況）を使って、それぞれのWGでの検討状況を説明。

- 藤野座長 どうもありがとうございました。こちらの方につきまして、何かご質問とかコメントとかありますでしょうか。
- 枝廣委員 1つ、よいですか？ 資源管理WGの食品廃棄物をどうするか、どれくらいの量が出そうなのか？ 処理をしたら、この方法をもちいたら、取り組みごとのCO₂の値なども紐づけて計算されているのでしょうか？ これは、低炭素の方にも絡んでくると思うんですね。どういうやり方を選ぶのか、もしくはどこまで処理するのか、その辺りの低炭素との兼ね合いを教えてください。
- 藤野座長 今のいかがでしょうか。
- 事務局 現状ではですね、まだそこまで踏み込めていなくて、まずそもそも組織委員会でこうすると決めた時に、本当にそれだけの処理能力が東京近郊にあるのかどうかというところを情報把握しているというのが現状のステップになっております。既にある飼料化・肥料化・バイオガス化の施設がですね、スーパーマーケットやレストランなどと契約していて、かなり処理能力がいっぱいになってきているという情報も聞いておまして、東京大会の時だけピークが出た時に我々が100%こうするとか言ったとしても、実現できるかどうかというところがあるので、情報収集・精査をしているという状況です。今後、検討していく上では、やはり単純に燃やすよりは、こっちの方がカーボンを減らせるといった議論にはなると思います。
- 藤野座長 そのあたりもそちらで議論される時に、一つ考慮事項として入れていただけましたら。他いかがですか。よろしいですか。では、3番のリオ大会視察結果の共有ということで、こちら事務局の方からお願いします。
- 事務局 資料4（リオ大会の視察報告（低炭素関連））を使って、リオ大会の視察結果について説明。
- 藤野座長 どうもありがとうございました。何かご質問やコメントがあれば。
- 枝廣委員 ありがとうございました。とても参考になりました。やはり世界だとLEEDだよねという感じですね。CASBEEはほとんど知られていませんで、その辺りは東京オリンピックもいろいろと考えていく必要があるかなと思いました。あと開会式の気候変動の話や、コミュニケーション・エンゲージメント、これからどういうふうにやっていくのが大事なのだろうと思います。一つ質問は、今、ご説明の中で輸送のことがありました。リオでは公共交通機関を使わざるを得ないという言い方をされていました。それはマイカー、乗用車も排除されていたのか、なぜその公共機関しか使えなかったのか、どういう状況だったのか教えてください。
- 事務局 ありがとうございます。まず一つは治安の問題がありましたので、歩いていく、ホテルから会場まで徒歩でいくというのは多分、危険だと思うんですね。ですので、我々はメトロやBRTといったものを極力使いましょうと、タクシーですら、ちょっと微妙ですよと、ホテルに呼んでもらってくださいというのがありました。おそらく周りの方も同じ状況だったんじゃないかなと思います。自家用車で会場に乗り付けることは非常に難しいと思

ます。私が特にマラカナンスタジアムの周りをぐるぐる回っている限りにおいても、タクシーで来て、降りてっていう人はあんまり見なかったですね。会場周辺はいわゆるリオデジャネイロオリンピックっていうロゴが入っている車、関係車両で大体埋め尽くされていたという感覚です。

- 小西委員 二つ質問があるんですけども、IOCの評価はロンドンと比べてどんな感じだったかなという点と、もう一点が例えばレストランとかで供給される食、食べ物ですね。COP21の場合は例えばMSCとか、これは持続可能な何とかですみたいな、オーガニックですとか、さんざん謳っていたんですけども、提供される食べ物に何か工夫はありましたか。
- 事務局 ありがとうございます。まずIOCの評価ですけれども、何分、私が視察した時はオリンピック大会期間中ですので、そのムーブメントを損なうようなリオはけしからんみたいな話はさすがにできないと思いますので、その時は特に聞いていません。リオはリオで頑張っているという評価でございました。今後、デブリーフィング等があると思いますが、その時にリオは実際どうだったという情報が入ってくると思います。まずそれが一点目。二点目、食についてなんですけれども、私は一応選手村と職員の食堂をそれぞれ見てきたんですけども、特に選手村等でも、これがオーガニックですというような表示があったとは聞いていませんが、いかがですか。
- 事務局 そうですね。リオではMSCとかASCによる調達を行っていて、選手村とか職員の食堂ではMSCとかASCの広告看板ですね、そういうものが掲載されていたと。それはリオのオリンピック組織委員会とMSC・ASCと協定を結んで、そういう形ができたというようなことは聞いております。ただ選手村で食事をする時に、これがMSCの魚だよとか、ASCの魚だよというような表示はされていないです。
- 事務局 これはリオの担当者の意見ではあったんですけど、中々オーガニック100%を招致の時に謳っていたのを達成するのは非常に苦しかったというようなことは言うておりました。あとは選手村で話題になったのは、量が足りていないというのがあったみたいです。水が足りないとか、バナナが無いとか、ブロッコリーとか、あとは味付けをしないでくれとか、選手が好きに塩・コショウだったり、ソースだったりで食べるので。シンプルなものが割と好まれていたのかなという気はしました。
- 岩川オブザーバー 私もリオに行ってきたので若干先ほどの質問に捕捉すると、駐車場に車が止められないのが大きかったと思います。あとは交通混雑のため、BRTに乗った方が早いです。BRT専用道があるので、タクシーで行くより早いです、実際。BRTの駅から多少歩いても、タクシーで行くより早かったと思います。
質問なんですけど、大分テクニカルな話なので、分からないなら、分からないで結構です。まず3ページの公共交通の関係で公共交通の排出量というのが、この絵には出てきますけど、組織委員会と言うと大会の排出の内数だったのか、外数だったのかというのが一点目。それから二点目ですけど、バイオエタノールの資料に車が出てきまして、これは当然内数だったと思うんですけど、ここの削減量で農業部門が半分占めているんですけど、食料でこれだけ減らしたとは、あんまり思えないので、化石燃料をバイオエタノールに切り替えたとい

う部分が相当大きかったのかなと思いますが、その点が分かれば教えてください。

- 事務局 中々テクニカルな部分までは踏み込めずにおりました。ちょっと調べて。
- 岩川オブザーバー 分かりました。結構大事な話だと思うので後日、教えてください。
- 藤野座長 私からも。サステナビリティチームの方にもお会いされたんですかね、現地で。どういうチーム構成だったか、大会の運営中の彼らの役割はどんなふうに分かれていたのか、教えていただけましたら。
- 事務局 ありがとうございます。2016年の8月現在で常勤が21名、ボランティアが4名の25名と聞いております。大会期間中は主にサステナビリティの観点からリスクの高い会場というのが、いくつかある。例えばラグオスタジアム、湖ですね。セーリング会場のグアナバラ湾ですとか、そういったところには例えば水質のモニタリングをするために職員を配置するですとか、割とパトロール的な役割を担っていたのかなと。例えば、そのヘッドオブサステナビリティの女性も四六時中電話で指示を飛ばして、今どうなっているということをやっておりました。
- 藤野座長 東京大会では、その役割はここが担う。当日のオペレーションとそれまでの準備はちょっとフェーズが違うので。
- 事務局 そうですね。2018年くらいを境に大分、縦の組織が横の組織になっていくと思うので、そこでどのようにするか。
- 事務局 リスクが大きいようなベニューにサステナビリティの担当者を置いて、それを総括して見る者がいるような感じで、全てそれはサステナビリティ部門の方で行っていました。
- 藤野座長 リスク管理とそれぞれのスタッフだったりとか、ボランティアもこのエンゲージメントっていうのを持っていたのか分かりませんが、省エネだったり、CO₂削減になることは心掛けてやりましょうとか、そういったことがオペレーションでもやられていたというような印象ですかね。分かりました。他いかがですか。
- 三浦委員 今のエネルギーのオペレーションの件なんですけど、毎日会場ごとの、施設ごとのエネルギー使用量が報告されているようなことなんですか。
- 事務局 そこまでは聞いていないですね。水質について毎日チェックしているというように、リスクの高い、低いとで判断をしていたのかと。
- 三浦委員 あともう一点がLEEDの関係なんですけれども、先ほどの資料ですとLEEDのPre-certificationとあって、LEEDって確か、プラチナとかゴールドとかがすごい高い評価で、あまりPre-certificationってどういうレベルなのか聞いたことがなかったので。
- 事務局 どうもあらかじめ予備審査みたいなものをとっておくと、今後入るテナントさんがこのビルは大丈夫なビルなんだということで有利になるからということで、オプションみたいな形でとるみたいなんです。本認証がとれているかどうかはまだ分からないんですね。

- 三浦委員 そこからゴールドとか、どのランクになっていくのかは決まっていますか。
- 事務局 そうだと思います。
- 事務局 確認した資料では、Pre-certificationとしか書いていなくて、そのレベルまで書かれていなかったんですよ。そこは、これから確認していかないと分からない。
- 三浦委員 それに絡んでもう一点が、リオはコミットメントの段階でLEEDのどの段階の評価をとるということはコミットで出しているのでしょうか。ロンドンも出していて、東京も立候補ファイルではCASBEEの認証の話を出していて、多分リオも何か出しているのではと思うんですよ、LEED取得はきっと出しているんじゃないかなと。そのランクまで出しているのかなと。
- 事務局 ちょっと今すぐにお答えできないんですけど、確認いたします。
- 臼井委員 再生可能エネルギーの利用状況みたいな、何か今分かることでありますか。
- 事務局 特にないです。
- 三浦委員 バイオ燃料とかは。
- 事務局 バイオ燃料は、エタノールが非常に活用されています。
- 飯野オブザーバー 熱利用ですか
- 事務局 熱利用はあまり聞いてないですね。
- 藤野座長 使っていたのかもしれないが、中々熱配管までは見に行かないですもんね。リオが終わりましたけれども、事後評価みたいなものはレポートにまとめてIOCに出されるってことに、プロセスがあるんですかね。
- 事務局 リオ大会の総括みたいな場が11月くらいにあると思っておりますが、実施形態はまだ正確には決まっていない。
- 事務局 報告書は、リオの方から出る予定になっております。
- 藤野座長 それが11月。
- 事務局 それは、もう少し先になるんじゃないかなと思います。
- 藤野座長 最初の報告が11月にあって、報告書が3月。
- 事務局 リオ大会自体の報告書っていうのは前か後かはちょっと分かりませんが、あるはずですよ。
- 藤野座長 分かりました。そこにこの結果がおおよそ書き込まれるんですよ。我々っていうか、大会組織委員会もスケジュールで終わった後も、そうなるっていうことですよ。
- 事務局 例えば、カーボンの実績なんかも、その報告書の中に書かれてくると思います。
- 小西委員 カーボンの実績って大体バクっとでも、どれくらいというものも、まだ報告書が出るまで分からないんですか。

- 事務局 おそらくそうだと思います。
- 小西委員 基本的にはオフセットの話だけではなく、さっき仰ったような再エネとか、バイオとかでどれくらいBAUより下げたのかというものも、まだ全然。
- 事務局 数字としてしっかり確定したものが記載されるのは、持続可能性報告書の最終版であろうと思います。11月のデブリーフィングという打ち合わせの中でも、そこまでテクニカルな話にはおそらくならないのではないかと考えています。なにぶんですね、リオ大会が終わると職員がお辞めになっていくので、その人たちが残っている間に生の声を聴こうの会が11月なものですから、細かい話は、おそらく出版物として後に出るものと理解しております。
- 飯野オブザーバー 既に整理されているか、排出量の算定方法や排出係数をどう設定したのかということところは非常に気になるところ。特に電気の排出係数を、使用電力量あたりの排出量がいくつあっていうのをどうやって設定しているかによって、日本はそれなりに細かく、電気自動車ごとに把握しているんですけど、リオだとその施設ごとにどういうふうに排出係数かけているのかなと思うので、それも分かれば確認したうえでフィードバックしていただければと思います。
- 藤野座長 この辺りは今後、カーボンフットプリントの話を東京大会でもやる時に過去のリオとかロンドンとかで分かる範囲で、できるだけ情報を集めながらってような感じですかね。
- 事務局 今、ご指摘あった排出係数についてですけども、カーボンフットプリントの算定は基本的にどうしていくかというのを、IOCとの協議の中では過去大会と比較できるようにしようと言われていています。ですから基本的な考え方は揃えて、排出係数については地域によって全然違いますから、それは地域の原単位を使っていいと、その実情に合わせたものにするべきだという考え方でやっておりまして、我々としても東京大会で使う電源構成をちゃんと考えて、それに合った原単位を選んでいくということで考えています。
- 三浦委員 ブラジルもおそらく自国の電源の排出係数をかけていると思うんです。ブラジルは水力が非常に多いので、係数が低いと思うんです。
- 小西委員 水力、バイオで稼ぐブラジル。そうするとロンドン、リオ、これから算定されていく東京と、大変事務局の手間を取らせるようですけど、比較可能表が最初からあるとうれしいです。
- 藤野座長 ご検討ください。他、よろしいですかね。また何かありましたら後でも。それでは次、議題4番で意見募集した結果の報告をお願いできますでしょうか。
- 事務局 資料5-1を使って「持続可能性に配慮した運営計画 第一版（案）」に関する意見募集のまとめについて説明。
- 藤野座長 ありがとうございます。今のご説明につきまして、何かございますでしょうか。何かお気づきの点があれば。

- 小西委員 今回、これだけきれいにまとめてくださって、しかもすごく時間をとってパブコメの後の意見を反映してくださるプロセスが立ち上がったこと、すごくうれしく思っています。この生のデータですけれども、結構生で出していいかなという気がするんです。このまま皆さん、自分の出した意見、もちろん公序良俗に反するようなことは駄目ですけど、そういうものでない限りは、出した方が皆さんの透明性の観点から言って納得感があるのかなというのと。後はよく省庁のパブコメでは横にこうこうこうでとほとんど取り入れないということが書かれているんですけども、対処法みたいな、ある程度まとめてでも、そんなのってさらにお手数を強いるようで申し訳ないんですけど、そういうのってお考えでいらっしゃいますか。
- 事務局 意見について全部出すべきといったご提案もいただいています、今どうするか検討しているところです。特に個別・具体的な企業名とか、そういうのが書いてあったりするんで、そういうところはちょっと変えるとか、そういうことは必要になるろうかと思いますが、できるだけ透明性を高めるといってやっていきたいと思っております。個々の意見に対する回答の方法ですけれども、一個、一個全部に対応するのか、それともある程度まとめたところで回答するのかということも検討しております、どこかのタイミングでできるだけ出していきたいなというふうに考えております。
- 藤野座長 ありがとうございます。見ていますと、評価をいただいているところもありますし、ただやっぱり数値目標の話が結構出てるなということで、こちらの方はしっかりやっていくとか、あとMRVとかISOとか、批准への対応だったり、オフセットだったり、具体の対策だったり、見てる人はちゃんと見てコメントされているんだなという印象です。これも後で見えていただきながら、もしコメントあればでよろしいですか。
- 藤野座長 それでは続きまして、議事次第5番のキャッチフレーズ・スローガンについて、資料をご説明いただけますか。前も何回か議論が上がっているんですけども。今日少し時間とってできたらと思います。
- 事務局 資料6を使ってキャッチフレーズ・スローガンの参考になる世界の潮流や企業の取り組みを紹介。
- 藤野座長 どうもありがとうございました。色々資料に情報をまとめていただきまして、ありがとうございます。これは継続的に何回かさせていただいている話ですけれども、パリ協定があって、その後もいろいろ動きがある中でですね、特に委員の皆さんも色んな場面で最前線でご活躍されていると思うんですが、そういうトレンドも含めながら、何か関連の情報提供とか、これに対するご意見とか、いかがでしょうか。
- 枝廣委員 最初にちょっと確認をさせていただきたいのですが、キャッチフレーズ・スローガンというのは、どのレベルのものだったのか、東京オリンピック・パラリンピック全体のキャッチフレーズ・スローガンの話でよかったのでしょうか。それとも持続可能性のところでしょうか。
- 事務局 東京大会全体というよりは、持続可能性の中の、その中でも特にカーボンに向けて

どうしていくんだという観点で。

- 枝廣委員 なるほど。例えば、カーボンはすごく大事ですが、資源にしても水にしても大事ですよね。「ワンプラネット」はすごくいい言い方だなと思って見てました。そうするとカーボンだけに絞るとというのは、低炭素ワーキングのキャッチフレーズみたいな感じですか。
- 事務局 そうですね。
- 枝廣委員 調達はともかく、資源管理ワーキンググループなど、他のワーキンググループもそれぞれ、キャッチフレーズ・スローガンが並び立つ感じになるのでしょうか。
- 事務局 そちらへんはまだちょっと検討ですが、やっぱり何かこうみんなが一つの方向に向かって、インパクトがある、ワンプラネットで表せる表現があると活動が進みやすいかなと思っております。
- 枝廣委員 どちらにしても、持続可能性のところで、各ワーキングを含め、活動が目指す方向を一言で出しておきたいという、そういう感じでしょうか。こういう時にカーボンに絞る方がいいのか、それとも例えばネット・ゼロ・インパクトみたいな、実質というのを付けてもいいと思うのですが、あらゆるインパクトをゼロに向けて、たとえば、資源も入り、水も入ります。議論の前提として、カーボンに絞った方がいいのか、そうでなくていいのか、どちらがよいのかという議論を先にしたほうがいいのではと思います。
- 藤野座長 今のところ、この議論をしているのはここだけですか。
- 事務局 そうです。
- 藤野座長 具体的には。
- 事務局 はい。
- 藤野座長 今までのDGだったりでは話は出ましたっけ。
- 事務局 DGでは出ていないですね。資源管理のワーキングでも委員の方からこういう考え方でやったらと提案は出ていますが、まだ第一版には反映されていないという状況です。
- 枝廣委員 確かDGで話しました。継続で考えましょうというようなことを、小宮山先生がコメントされてましたよね。
- 小西委員 これやっぱり低炭素のレベルだけじゃなくて、全体にも関わるんじゃないかなと考えて、両方作ってきたんですけど。
- 藤野座長 ご準備された。何かあります。
- 小西委員 一応、考えてみただけなんですけど。
- 藤野座長 じゃあ、どうぞ。
- 小西委員 とりあえず三つ考えてみたんですけど、全体に係る感じだったら、やっぱりパリ協定が始まって、国境を越えて、みんなで未来ということなので、ちょっと焼き直しなんですけど、「ワンプラネット・ワンフューチャー」、一つの地球・一つの未来みたいな、東京

2020ワンプラネット・ワンフューチャーみたいな、そんな感じだと、今の醜い世界195カ国、プラス1地域の争いを超えて、ひとつの未来を目指す脱炭素の東京オリンピックなんだよみたいな。ただし、脱炭素だけじゃなくて、持続可能な調達、資源循環も全てを含めたということで「ワンプラネット・ワンフューチャー」はいかがかなというのが一つの提案です。あともう一つはカーボンに絞るならば、やっぱりこのdecarbonizationというのは日本では、まだなじみがなくて、みなさんに可愛がってもらえないのかなという気がして、そうすると例えば「ノーカーボン」とか、ノーを英語でnoとして、エクスクラメーションマークみたいにして「No!カーボン オリンピック」とか、そんな簡単なのではどうかなみたいな。とりあえず、両方のレベルで。

- 藤野座長 ちゃんと宿題をやってきていただきまして、ありがとうございます。
- 枝廣委員 今のことにも関わりますが、ターゲット作りですね。国外に東京オリンピックの持続可能性の側面をアピールするために作るのか、それとも、さっき仰ったようないろんなワーキングとかFAなどが、それを目指して、それぞれで頑張ろうねという国内や組織内に向けてのものなのか、日本の人たちに向けて、東京オリンピックはこういうことを目指してやりますというものなのか、その辺によっても言葉の選び方も違ってくる。例えば世界にアピールするのだったら、カーボンだけに絞るのではなくて、つい先日スイスで、スイスはワンプラネットを目指すべきだという国民投票が行われたぐらいなので、「ワンプラネット」は一つのキーワードかなと思います。ただ、国内的にパリ協定にも後ろ向きオーラが漂っている日本の中では、炭素に絞って、東京オリンピックを一つの突破口にしていくのだぐらいの形でもいいと思うし、対外的なもの、国内のものと、キャッチフレーズを作ろうと仰った目的、イメージがもしあればお伺いしたいです。
- 事務局 今回キャッチフレーズを作ろうというのは、例えばこれからパートナーの企業の方々にも、いろいろ取り組みをお願いする場面があったりして、そういう中でこういう言葉があると、オリンピック組織委員会が引っ張ってくれる言葉があると、非常にやりやすいということがあって、そういう意味でもこういうキャッチフレーズを作ってみたいなと思ったり。あと我々がこれから第二版の中で具体的な取組を皆さん方にお示しする中で、東京オリンピックはこういうものだと、それに向けてそれぞれのNGOの方々が、それぞれの活動の中で、この言葉を使いながらやっていくと日本全体が盛り上がるとか、そういう意味合いも含めて。ですので、カーボンだけに限らず、二つ、全体のキャッチフレーズとカーボンのキャッチフレーズがあればお示ししていただいて、全体でよければ全体で進むし、あるいはカーボンだけの場合はカーボンだけにするかというところになるのかなとは思いますが。まだその辺りは、具体的にどうしようかというところまでは詰められていないところです。
- 藤野座長 ありがとうございます。今のご説明も踏まえて何かご意見とか。
- 枝廣委員 もし、そういう二段構えでよければ、私が作ってきている宿題の案は、全体的にはさっき言った「ネット・ゼロ・インパクト」みたいな形にして、カーボンについては別出ししてアピールしたいです。これも前回出た話ですが、road to を使わせてもらって「Carbon Zero」みたいなものはどうでしょうか。横文字がいいかというのは、また別の問題なんです

が、とりあえずイメージとしてはこのような感じです。

- 藤野座長 ありがとうございます。他、こんな案もあるんじゃないかと、方向性なり使い方のご意見なり、ありますでしょうか。
- 臼井委員 他のスローガンというか、他の言葉もあると思うんですが、オリンピック全体の中でパラリンピックだと「ポジティブスイッチ」なんていうのもありますし、大きな考え方みたいなものもありますし、そういうのと揃えて「なんとかスイッチ」とか。具体的な案があるわけじゃないんですけど、やっぱりそのスローガンと、それ以上の考え方もできるのかなというのはちょっと思いました。
- 藤野座長 全体のスローガンとの整合性みたいな話も、それは当然ありますよね。
- 臼井委員 全体のスローガンでパラリンピックの「ポジティブスイッチ」という言葉とブランドイメージを揃えていくというような考え方もあるのかなと。
- 枝廣委員 パラリンピックが、ポジティブ…。
- 臼井委員 ポジティブスイッチ。
- 藤野座長 すいません。確認なんですけど、このスローガンが二つのレベルというか、持続可能性DGの中で大きなタイトルとCO₂に関するタイトルみたいなものもあるし、それが第二版とかに載って行って、さっき仰ったようなスポンサーとか、運営していく上でのキャッチフレーズとして、当日の運営の時もそういうの言いながら、頑張りましょうみたいな、そういうような使われ方に持っていくんですかね。
- 飯野オブザーバー 一ついいですか。これ別に役所として全然考えてきたわけじゃないんですけど、「クールチョイス」っていうスローガンで国民運動をやってしまして、もしかしたら事務局の方、ご存知ないかもしれないんですけど、「クールチョイス」、賢い選択のクールと地球の様々なクールをかけてる、解説しないといけないんですけど。もともとはクールビズの成功体験があって、クールチョイス、クールビズだけじゃなくて、生活全体に広げようということで「クールチョイス」って言って一生懸命、去年からやってるんですけど、認知度が低くて、認知度高めるにはどうすればいいか、みんなで今、一生懸命やってるんですけど、要するに、いろんな商品のプロモーションとセットにしていくというのは一つのやり方なんですけど、それだけでいいのかという議論があって、もし今回オリンピックのキャッチフレーズに選択していただけたら、大変ありがたいなと。笑い声が起きちゃうんですけど、一つそういう話もなくはないかなと思って発言させていただきました。
一つ真面目なことで言うと、基本的にゼロエミッションとワンプラネットは大事だと思うんですけど、特にゼロエミッションに関してはターゲットというか目標なので、キャッチフレーズ・スローガンは別にあってもいいのかなと。要するに何か明るいイメージがあるワンプラネットの方が明るいイメージになると思うんですけど、ゼロエミッションとかノーカーボンとかゼロカーボンのほうは目標なので、目標と別に何か中身があるものが何か一つあってもいいのかなというのはちょっと思いました。それはいろんな意見があると思いますけど。

- 藤野座長 確かにその目標を立てるのか、行動指針なんですかね、クールチョイスって一つの行動指針になり得る、それぞれの場面でどの選択をするかって時にクールな選択。それをやると環境省がちゃんとサポートしてくれる。それは飯野さんが言えるかっていうのは分かりませんが。
- 飯野オブザーバー それはちゃんと役所でも考えたいと思います。
- 藤野座長 一つのご意見として。ありがとうございます。他いかがでしょうか。
- 枝廣委員 さきほどの意見募集のところでも、きっちりした方向性として数値目標をちゃんと出すべきというのは、沢山ありました。それはやっぱり必要だと思うんですね。そうしないと、最初に出しておかないと、ずるずる楽な方というか、現状に引っ張られていくと思うので。そういう意味で言うと、目標をスローガンにしてもいいのかなという気はします。その時にゼロに向かってとか、ネガティブ、deなど、あんまりプラスのイメージではない言葉だけれど、そうしないといけないという切迫した状況を鑑みるとちょっと強い言葉でもいいのかなという気もします。でないと多分、流れてしまう、なにかよくあるスローガンみたいな感じで、それはもったいないかなと思います。
- 小西委員 これさっき枝廣さんが仰った、なんとなく後ろ向きオーラっていうのは、国内とそれから国際的っていうのが、どこを指すかという定義は別として、そのギャップに海外と日本を行き来すると感じるんですね。やはり国際的イベントなので、少なくとも日本国内を引っ張る意味でも脱炭素なんだよということは、スローガンとして打ち出しているんじゃないかなと思うんですね。特に2020年なので、パリ協定始まる時なので、正にめちゃくちゃ盛り上がっていると思うんですね。そのオリンピックなので。
- 藤野座長 何回もやっているんですけど、今日決めなくてもいいんですけど。やっぱり、いくつか考え方があると思うんですね、使う場面というか。さっき全体のレベルなのか、CO₂のレベルなのかとか、あと方向性をしっかり示して目標値でやるのか、行動指針的な話なのか、後どっちにアピールするのか、やっぱり国際で打ち出すんだよねっていうところだったり、やっぱり国内認知のところも、スポンサーとかに訴えていくという意味では国内にもある程度の理解が得られるものにしないといけない。それらを全部包含したら、大変なことになるんですが、いくつかご意見いただいたところの考え方の中で、どういう目的で使うのかというのがある程度明確にならないと。DGに持っていく時に、こういう考え方に則りまして、今回こちらではこういう案を検討しましたとか、ちなみに他にもこんながありましたとかかって、ちょっと多分これ上に諮らないとあれですよ。その整理がもう一つやった方が。そうしたら、もうちょっと整理して我々の方も議論できるような気がするんですけど、いかがでしょうか。なので、議論していること自体はDGで報告はしたいと思うんですけど、ちょっと整理しながら、逆にDGの方からも、こうあるべしみたいな。でも、結局ゼロ排出になるかは分かりませんが。その目的がスポンサーにもっと意欲的に関わってもらおうとか、または国とかステークホルダーに関わってもらおうためのキャッチフレーズなのかとかもありますので。その辺り、ちょっと整理していただけますか。

- 岩川オブザーバー 環境省から先ほど発言がありましたけれど、国が対象とするところと組織委員会が対象とするところ、同じではないので、組織委員会と同じ方向を向いている必要はあると思いますが、どういう場面で、何を対象として、どういう使い方されたいのかっていうのを、よくお考えになったうえでご提案いただくっていうのが一番いいのかなと私は思います。
- 藤野座長 そうですね。ありがとうございます。じゃあ、ちょっと事務局にも宿題を戻してしまうんですが、また委員及び皆さんもいい案が思いついたら是非事務局までご連絡ください。そんなところでよろしいですかね。
- 藤野座長 じゃあ6番の議事に移らせていただけますでしょうか。調達コードの低炭素関連部分について今度は資料の7ですかね。よろしくをお願いします。
- 事務局 資料7 持続可能性に配慮した調達コード（素案）を使って現在の調達コードの進捗状況について説明。
- 藤野座長 ありがとうございます。皆様ご意見いかがですか。
- 小西委員 低炭素、これかけてくださってありがとうございます。省エネルギーと低炭素とその他の三つ、この文章のをそのままを活かす形だと、言葉が弱すぎると思うんです。サプライヤーなどはという(2)の1ですね。「省エネルギーの低減に努めなければならない」、その例として挙げられるというやり方はロンドンでもそうだったので、そういった形だと思うんですけど、「低減に努めなければならない」というなら、脱炭素に向かってあまりにも弱すぎると思うんです。ですので、ここは「消費エネルギーを低減しなければならない」って言っても全然問題ないんじゃないかなと思います。
その後、その例として挙げられる調達物品の製造・流通の前に「原材料調達」という言葉も入れてもらいたいと思います。原材料の調達で温室効果ガスが少ない材料を調達することもできますので、ここはやっぱり「原材料調達」、本当はここに金属とか入れてほしいんですけども、そこまでは望まなくても「原材料調達」という言葉を入れていただきたいなと思っております。
それと同じで、低炭素・脱炭素エネルギーの利用のところも二行目「CO₂ 排出係数の低いエネルギーの使用に努めなければならない」ではなく、「CO₂ 排出係数の低いエネルギーを使用しなければならない」、その例としてがあるのでいいと思います。例として天然ガスまで入っていますので、「CO₂ 排出係数の低いエネルギーを使用しなければならない」と言い切っていたらいいかなと思います。
それと3ですけども、フロンがリオは結構問題だったと聞いております。現在はフロン排出抑制法で決まった低WG化ということでR32冷媒、これグローバルウォーミング係数が675もあるんですけど、この導入が加速化されているんですが、自然冷媒にすると本当に全然グローバルウォーミング係数が違いますので、ここやっぱりGWPよりは自然冷媒でいくべきではないかなと思っています。聞くところによると、リオでは空調機でR410Aなどのフロン類を使用していたとのことで、これは論外だということなので、やっぱり東京はリオは論外だとして、ロンドンは上回っていくべきかなと思います。ロンドンの時には9割自然冷

媒で対応していたとのことです。今度は東京オリンピックでそこを上回る形をとおっております。ということで、ここの言葉もノンフロンの方にまるぼつをして、低WGP（地球温暖化係数）を消して、「自然冷媒の使用」、その言葉に変えていただければと思います。最後に4、資源保全に配慮した原材料の採取のところでも同旨ですね。「適切な採取・栽培による原材料を使用しなければならない」としていただければと思います。

- 藤野座長 枝廣さんも何かご意見ありますか。
- 枝廣委員 特に省エネのあたりが弱い。例えば「CO₂排出係数の低いエネルギーの使用をしなければならない」、本当は強く出したいのですが、それができない場合があったとしたら、どう考えるかというのはあるのではないのでしょうか。省エネは色んな努力でできるはずだし、ここのところは少なくとも、「低減しなければならない」という強い形を出してほしいなと思います。

あと、ちょっとこれは違う話なので別途でいいのですが、環境全体を見た時に「水」が無いような気がしています。特に日本ではあまり問題になっていませんが、水の問題は世界的には持続可能性の課題なので、調達に関する水、ウォーターフットプリントを使うかどうかは別にして、それへの意識を業者の方に向けてもらうというのはどこかに入れてほしいなと思いました。

- 藤野座長 ありがとうございます。先に意見があったらお聞きして、事務局にまとめて最初のラウンドの反応をいただけたらと思うんですけど、他いかがですか。東京都の方から何かありますか。
- 白井委員 「努めなければならない」としたのには、何か理由がありそうなのかなとお聞きしながら思ったところなんですけれども、参入障壁という言葉でいいか分かりませんが、事業者が参加しにくくなってしまふ部分も懸念する必要があるのかなというところもあります。書き方は確かに弱いという趣旨も分かっているつもりではありますけれども、どのような表現がいいのかなと、少し今考えているところではございました。

- 藤野座長 ありがとうございます。
- 岩川オブザーバー 委員の仰っていることに反対するという趣旨ではないんですが、一般的なルールのところであんまりガチガチ書いても結局、実際どう運用するんだというところがあるので、一般論では調達の仕様書で要件は書くわけで、そこで、ある程度決められるはずなんです。ふわっとした一般則のところであんまり書いても、どうやって、それを一個一個担保していくのか、リンクをどうさせるのか課題が多いかなと感じます。実際にここでそこまで書くのかなというのは検討が必要かなと思います。

- 枝廣委員 今の点で是非教えていただきたいことがあります。個別の仕様書の原則がまずあって、原則に乗った形で個別の仕様書を作るので、私たちはそこまで関われないけれど、原則をしっかり強く出しておけば仕様書にも強く反映されて、個々の事業者の活動が変わるだろう、という想定でしっかり作りたいと思っています。ふわっとして、あとは個別でやりますからと言われてしまうと、何のためにこれを作るんだろうという気がするのです。

実際の運用がどうなっているのか、ふわっと作って個別でしっかりやって、しっかり担保しているのが私たちにちゃんと見られるのであれば、それでいいと思うのですが。

- 岩川オブザーバー 私が言いたかったのは仕様書で、例えば車であれば何年基準、何パーセント達成、そこでビシッと書かれるんでしょうかと、そういう趣旨です。それ以上は事務局マターかと思います。
 - 藤野座長 他いかがですか。
 - 三浦委員 その仕様の話が調達ワーキングで議論されているのかなと思っていて、省エネの車とか、電気とかの個別基準を水産物と同じように作る予定は、今のところあるんでしょうか。あと運用のところがやっぱり重要になってくるかと思うので、その議論が今どうなっているかお伺いできればと思いました。
 - 事務局 車の環境性能やエネルギーの環境性能、排出係数とか、そういったところを調達コードの個別の基準については今のところその予定はなくて、仮に作るとしても大会全体で低炭素化はどういうところを目指していくのかということと、数値目標を作るという話にリンクしてくる話かなと思っています。運用については車両やエネルギーに求めるような、いろんな調達をする物品の環境性能、スペックという話で言えば、仕様書で求めていく部分だと思いますし、そこは調達コードの中でというよりは、個々で必要な施設・設備があって、必要なスペックもありますし、その中で大会全体の環境配慮と整合がとれるようなスペックを求めていくことになると思うんです。今、調達コードで書いているのは最低ラインとしてグリーン購入法というものを頭書きで書いていて、なおかつ1・2・3で書いているのは物品・サービスが作られていくサプライチェーンの中でも、なるべく環境に配慮した、ここで言えば、省エネや低炭素エネルギーの利用であるとか、そういったものを促していく。製品自体のスペックよりは、作られていく過程の中で取り組みを促していくという趣旨で書いている部分でございます。そういう意味では色んな取り組みがあり得ると思うんですけども、他方でそれを調達コード全体の議論として、ここは環境の話ですけども人権や労働などいろんな話があって、トピックによって求める強さって違うんじゃないかと。やっぱり人権とか労働ってことで、差別などが起こってしまっただけはいけない、そこは強く言わないといけない。他方で、省エネの話というのはそこまでではないのかなと。もちろん促していくけれども、そこは少し差が出てくるのではないかと。ロンドンの調達コードでも、確か私の記憶だとしなければならぬという表現ではなくて、こういった省エネができるような機会を追求していくというような表現だったと思うんですね。
- あともう一つ、小西委員からあった省エネで原料調達も言葉を入れてほしいということだったんですけども、言葉の意味としては入っています。一番最後に、「製造・流通等」というのはどこまで入るのかというところで、それは原材料の調達からというところで整理しているので意味としては入っています。
- 藤野座長 どこを読むと入っているんですか。
 - 事務局 一番後ろに用語の整理ということで表を付けていて、下から三つ目ですね。ここで「製造・流通等」と言っているのは、原材料を取るところから組織委員会に提供されるまで

という整理にしています。

- 枝廣委員 今のご意見に対して、人権は本当に大事だと思っています。それを強く打ち出すというのは本当にそうだと思うのですが、先ほどからスローガンの議論をしていたように今回の東京オリンピック・パラリンピックは、低炭素や脱炭素、ワンプラネットなど、そういうことを強く打ち出そうとしているので、調達コードにも反映すべきだと思うのです。私は人権と同じくらい低炭素も大事だと思っていますが、少なくとも公にもそれを打ち出すので、通常よりも強めの言葉でこれは本当に本気なんだよと。もちろんみんな本気でやりますが、表現としても、本気度合いが高い表現で書けないかなと思います。「低減しなければならない」というのがあまりにも強いのであれば別の言い方でもいいけれど、「努める・努めない」というと、その人任せになるので、「こちらが求めている」という調達コードとしての表現方法がないかなと思います。
- 小西委員 ここの表現なんですけれども、これってそのまま英訳されて出ていくことになると思うんです。前から申し上げているんですけど、we try to reduce our energy consumption でして、これが2020年のオリンピックっていうのはやっぱり国際的にむしろリスクだと思うんです。さっき仰ったロンドンオリンピックの文言は、少なくとも消費エネルギーの低減に努めなければならないよりもはるかに強かったですよね。今、資料がないので分かりませんが、もしそれでいいのであれば、ロンドンオリンピックと同じ表現にしませんか。英語のそのまま。あれはかなり強く、seek every opportunity to reduce energy みたいなことがあって、例として色々リスト化されていましたよね。ですので、あれを英文の公表文書そのままにして、それを日本語に翻訳するという形だとどうでしょう。
- 藤野座長 今、ありますか。その英文なるものは。ちょっとすぐには出てこないかもしれませんがね。今のご提案は1と2と3に渡ってという意味ですかね。
- 小西委員 はい。
- 飯野オブザーバー 努力義務にするか、義務にするかは、ものすごく大きな違いがあると思うんですけど、後半になると例えば人権の中も女性の権利から先は努力義務になっているんですよ。だから努力義務か、義務かは多分お考えがあって整理されてるんだと思うんですけど、人権でも相対的に扱われているものもあって中々難しい。ロンドンのっていうのは断片的には全然反対はしないんですけど、多分全体に関わる話なので整理していただいた方がいいんじゃないかなと思います。ここはロンドンのコピー、そういう整理がないわけじゃないかもしれないですけど、ここをロンドンのコピーにするのであれば、他の部分はどうするのかということも併せて事務局で考える必要があると思うので。
- 枝廣委員 例えばさっき小西さんが仰った、それを図るためのあらゆる opportunity を模索するという感じだと、義務ではなくて努力義務で、ただ努力します、努めなければならないというよりも、もう少し踏み込んでいると思うんですね。一つ決めたら人権を含めて適用しないといけないのか分かりませんが、今度の東京オリンピック・パラリンピックは低炭素もしくは脱炭素を大きなテーマにしているので、そこのところは一步踏み込んだ表現で、他とは違った表現でもいいと私は思います。

- 岩川オブザーバー コンプライアンスなどに直接関わるようなものは、～ねばならないというふうにしたんじゃないかと記憶しているので、全体に関わる整理として、その整理を変えてしまうのではないかと思います。そこは整理の問題ですが、ただ最初はそういう仕分けだったと認識しています。
- 事務局 現状はそういう仕分けで、分かりやすさも含めて、義務的に求める話と努力義務とざっくり二つに分けて今は整理しています。努力という中でどのくらいの幅の書きぶりがあり得るのかということは、全体の整理と併せて検討できると思いますけれども。
- 小西委員 コンプライアンスの最後の方に担保方法として 5 から苦情処理システムと重なっているんですけども、やっぱりどうしてもコンプライアンスしなければいけないものは遵守しなければならないとなっているんですね。例えば(1)番とか(2)番とか。結局省エネとか、再エネとか、低炭素の場合はこれがどうやってやっているかっていうような実際の罰則規定とか、そういうものにはなじまないようなものではあるので、元々これをやらなかったから何かしていますみたいな、遵守とは結び付きにくいものなので、ここでもなるべく強い言葉でとりあえずのガイドラインが入ったら、実際の仕様書で決まってしまうものだと思うんです。さっき枝廣さんが仰ったように、仕様書を作る場合に表の言葉が努力に努めていたら、そもそも低炭素 WG って何のためにあるんだろうという感じになってしまうと思うので、ここはやっぱりガイドライン、精神を、ビジョンを示すものだと思います。人権とかコンプライアンスのところでは調達ワーキングで事務局がまたご説明されると思いますけど、すごく話し合っているところなので、元々調達のところに苦情が来た場合に調べて、組織委員会がこういったものだと公表するのができてくるんだと思うんですけども、低炭素の方は、そういったものとは元々なじまないものなので、そこをリンクさせて考える必要はないのかなと思います。
- 藤野座長 (2)の環境のところって全てが努めなければならないって①から⑧まで、最後全部同じ表現なんですよね。そう言っちゃうと他の WG でやっている人たちも俺たちも大事だってなると、同じような方向性になるかもしれないので。多分、懸念は努めなければならないという表現というかですね、方向性というかですね、あらゆるオプションを試しながら、仕様書ではあれとこれと比較して、この省エネ性能がいいと思われるものを提案しますみたいな。再エネもこういうのをに入れて供給しますとか。ただ、他の要素も含めて最後採用するわけですよね、全部を踏まえて。できたら CO₂、省エネ・再エネの比重が高くなればいいんですけども、すべてはそれだけで決まるわけではないので。入札する人がちゃんと検討したプロセスが見えて、こちらはこういうようなものを提案しますと、それぞれ A 社・B 社・C 社が提案した時に、ここはこういう省エネ・再エネのオプションを提案しているとか、B 社こうだ、C 社こうだ、その時に採用するうえでその提案がより積極的なもの、最後コストもかかりますけども、そういうプロセスが前向きに見える表現になったらいいのかなと。だから、その文言が何なのかというところが一番大事なんですけれども。そういう方向性、そういうことを仰っているんですか。
- 小西委員 せめてロンドンレベルを上回ってほしいのが本当なんですけど、落ちてほしく

ないですね。

- 藤野座長 そういう意味ですよ。機会を追求していくというのは正直、省エネ・再エネにも限らず、資源保全だったり、生物多様性についてもですね、AのオプションとBのオプションがあるんだったら、それより積極的なものをできるだけ提案の中に取り込んで、組織委員会が何か事業公募した時には提案するような、それに則って採点するみたいな、そういう方向性を原則の中に入れ込みたいということです。
- 事務局 実際、調達にあたっていろんな評価ができるのか、あるいは物によっては金額だけということもあると思いますし、いろんなパターンがあると思います。評価するとしても製品自体のスペックという話なのか、作る過程のいろんな話までを取り込めるのかというのは、制約がいろいろとあると思うんです。
- 藤野座長 ここの表現を変えると、全部がボロボロと変わる感じもしまして、調達WGでの議論にもこういう意見があったので是非お諮りくださいということと、できたらこちらの方でも今言ったことを言葉にするとどういうことなのかっていうのは、小西さんと枝廣さんの方でも案があれば是非、提案していただいて、それに則って調達WGで議論していただいたほうが前向きというか、もちろん事務局の方で実際それに基づいて仕様書とかを作るという時にこれがすごく重くなって、逆に何処も手を上げられないっていうのも困るんでしょうからね。そこらへんの兼ね合いなんでしょうかね。
すいません、時間が過ぎてしまって、今後の予定のところにも絡んでくるんですが、この意見を調達WGの方にご提案する、こちらの方も含めて今後のスケジュールを事務局からご説明いただけますか。
- 事務局 今後のスケジュールでございますが、調達ワーキングが今日の午後にありますけれども、さすがにそれには間に合わないので、次が10月の下旬くらいを目途に調整をさせていただいているところなので、10月中旬くらいを目途に何度か委員の先生とやりとりさせていただいて、この低炭素WGとしての提案をまとめて諮りたいと考えています。
第一版の関係でご報告しておきますと、資源管理WGが10月17日でございます。それからWGの活動を受けたディスカッショングループを11月7日に予定しております。さらに委員会を11月15日に予定しております。こういった流れで計画案の第一版について有識者の方々のご確認をいただいたうえで、11月に経営会議、12月に理事会を経て年内にIOCに提出するというステップで考えているところです。
それと並行して、調達コードについては11月下旬にパブリックコメントをかけられるように今準備を進めているところです。
第二版については現在、我々の方でさらに具体的な施策、どういったことができるかというところを組織委員会の中で関係の機能の部署とも議論しているところです。カーボンについては、フットプリントの算定を始めております。こちらについては、別途カーボンフットプリントに造詣の深い方々に検討していただくという形で準備を進めておまして、出てきた情報をこのWGにいただいて、WGではそれに基づいた施策の検討に注力していくというふうに考えていますので、よろしく願いいたします。

- 藤野座長 ありがとうございます。何か確認したいこととかありますか。
- 小西委員 カーボンフットプリントのデータをいただいて、検討するスケジュール。
- 事務局 まだ大枠でしかないんですけども、一応年度内には固めたいと思っております。今年度末目標に今作業しておりますので、年度明けにはですね、最初のカーボンフットプリント、このぐらいになりそうだとお示しできるかなと考えております。そこまでの過程のスケジュールは、まだ詳細はお伝えできないんですが。
- 枝廣委員 低炭素 WG 自体の開会の予定は何かイメージがありますか。
- 事務局 まだ現状では決まっていなくて、先ほどのキャッチフレーズ・スローガン、その他、委員の皆様から、こんなところについて話を聞きたいとかですね、そういったことがあればですね、また設定させていただきたいなと思っているのと、今、我々の内部でどんな施策が考えられるのか、第二版に向けて検討を進めていますので、そのタイミング、アドバイスをいただきたいという所が見えてきたらですね、召集をかけさせていただければなと思っております。
- 藤野座長 今のところは DG や委員会の前には、個別にやれたらという感じですかね。
- 事務局 はい。
- 藤野座長 また必要があるという時には言っていただいて。これは座長からもお願い、やっぱりやりましょうという時にはできるということだと思っておりますので。全般に及んで何かご質問とかコメントとか、もしありましたら。
- 枝廣委員 公開に関して、今回から議事も公開しますし、前回から議事録も公開されていて、いい方向でよろしく思っているのですが、一つパブリックコメントの中でも資料も公開すべきだという声がありましたよね。資料の方はどうなのかということと、それからもう一つは公開なので、ここで聞いた話、例えば今日のリオのご報告など、この委員会でこういう話が出たということを議事録が出る前に私たちが外でしゃべったり、書いたりしても構わないかどうかという、そのあたりはどう考えたらいいでしょうか。
- 事務局 資料の公開に関しては、委員席のみ配布資料は公開しませんが、それ以外については議事録とセットで公表していく方向で考えております。この場で話したことについては、既にメディアの方が入られているので、是非 PR も含めて言っていただければと思います。
- 藤野座長 特に自分のご発言のところは言っていただいて、他の人の発言で、ちょっと不明確なところをご確認いただいてから言っていただけたらと思います、私としては。よろしいですか。今日もご議論、どうもありがとうございました。

以上